

オーストラリアの落葉果実事情(生食用ブドウ)

米国農務省GAINレポート 2024年10月9日

これは米国農務省海外農業局キャンベラ事務所(オーストラリア)が作成した「生鮮落葉果実年次報告書」を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要約

オーストラリアの2024/25年度の生食用ブドウ生産量は、2023/24年度の推定19万5千トンから、過去最高に近い23万トンに増加すると予測される。この増加は主に、十分な低温時間や通常より高い最高気温等の好ましい気象条件が近年で最も良好な発芽をもたらした結果である。この好ましい生育条件が収穫の終了まで続くのであれば、2024/25年度の生食用ブドウは豊作が期待される。

また、これらの最適な生育条件と収穫期までの好ましい条件への期待が相まって、輸出市場に適した生産物の供給が増えるものと期待される。その結果、2024/25年度の輸出量は史上3番目に多い13万5千トンと予測される。

中国は依然としてオーストラリアの生食用ブドウの主要な輸出先であるものの、国内生産量の増加により輸入量が5年間で50%以上減少すると見込まれる。それでも、中国からの近さと高品質なブドウの生産により、オーストラリアのブドウ産業は南米の競合国に対して有利な立場に位置付けられている。

予測される生産量の増加は、2024/25年度の国内消費量の10%の増加を支えるものと見込まれる。ただし、輸出に向けられる高品質なブドウが多くなると見込まれることから、生産量に占める国内消費量の割合は低下するものと予想される。

<生食用ブドウ>

概要

オーストラリアの生食用ブドウの大半は、ビクトリア州北部のサンレイシア地域とマレーバレー地域で栽培されており、出荷量の約78%を占めている(図1)。これに加えて、ニューサウスウェールズ州南部の2つのリベリーナ地域が出荷量の約10%を占めている。これらの地域の主な特徴は、温帯気候であり、排水の良い砂壌土で、年間降雨量が約300ミリと少なく、そのほとんどが基本的に収穫期間の11月～5月ではなく、5月から10月に降ることである。冬は穏やかであるが、樹体が必要とする十分な低温期間がある。これらの地域は、ブドウの樹体の水需要を満たすため、灌漑に大きく依存している。これらの条件は発芽を促して潜在的収穫量を高め、春から秋までの降雨量の少なさと暖かい気温は降霜、過湿及び降雹のリスクを最小限に抑え、よく管理された噴霧/点滴灌漑及び施肥計画と相まって作物の生育を最適化する。

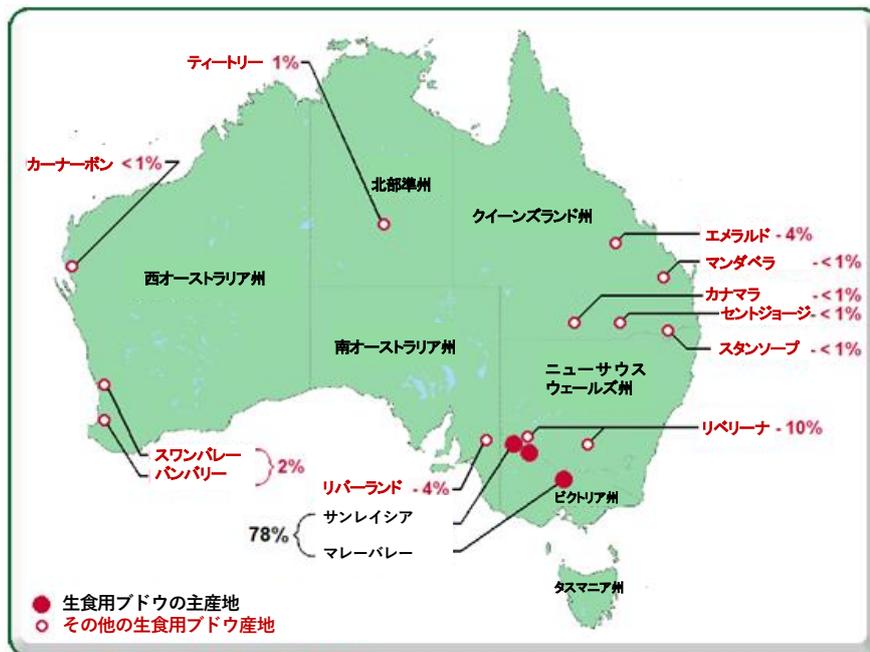
他の重要な産地はこれらよりも北のクイーンズランド州、北部準州及び西オーストラリア州にあり、早く暖かくなり出荷時期が前倒しになるが、冬が暖かいため低温期間が短く、最適な産地とは言えない。しかし、これらの地域の生食用ブドウは、ビクトリア州の主要産地よりも早く成熟するため、主に国内市場向けの出荷期間の延長に貢献している。これらの地域では出荷量が相対的に少ないため、主に国内市場向けに、米国産ブドウの輸入が減少し始め、かつ国内の南部の主要産地の収穫が始まる前の時期に出荷している。

オーストラリアの生食用ブドウの出荷は、10月に北部準州のティートリー地域及びクイーンズランド州のエメラルド地域で始まり、西オーストラリア州のカーナーボン地域では11月上旬に始まる。さらに南の地域が徐々に収穫を開始するにつれて出荷量が増加し、最も南部のリベリーナ、マレーバレー、サンレイシアの各地域で大規模な出荷が始まる2月～3月に最盛期となる。これらの地域は、国内では最も遅く毎年5月頃に出荷を終了する。また、クイーンズランド州最北部のマリーバ地域や西オーストラリア州のブルーム地域からも非常に少量の出荷があり、輸入品と競合する6月下旬から7月にかけて収穫が始まる。これらの地域は、産地としてはまだ未成熟な発展段階にあり、現時点では生産量と果実の品質は安定していない。

オーストラリアの生食用ブドウ産業にとって前向きな重要事項は、過去10年間、生産者が面積を拡大しており、権利関係のある輸出志向の新品種に特化してきたことである。品種の選択は、中国などのアジア市場

からの強い需要を背景にしている。中国の消費者は、次第にレッドグローブ等の種有り品種から離れて種無し品種に目を向けており、新しい品種や食味を試すことにも関心を持っている。

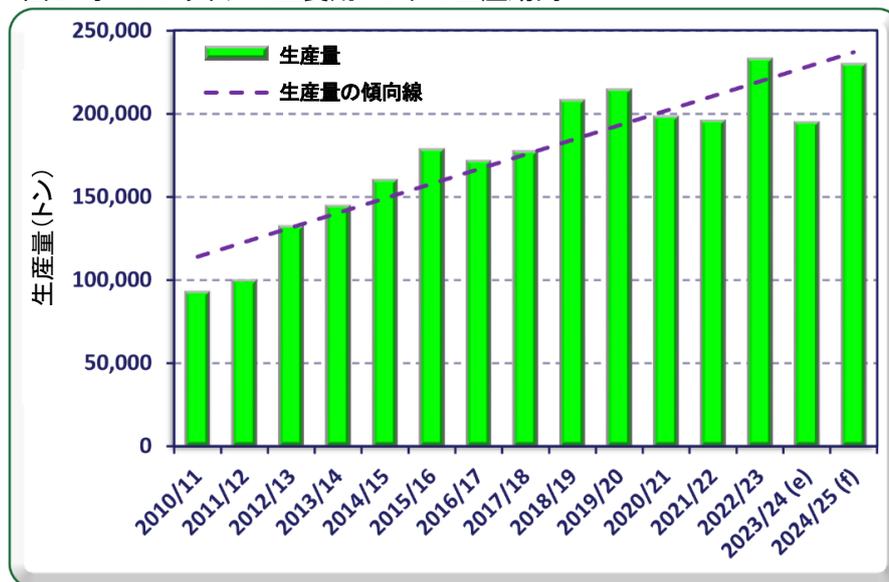
図1 オーストラリアの生食用ブドウ産地



出典: オーストラリア生食用ブドウ協会/Horticulture Innovation Australia

2010年頃から10年以上にわたって業界は急速に成長してきたが、この成長はCOVID-19のパンデミックの影響で引き起こされた収穫労働力の不足と投入資材及び物流コストの増加により停止した。さらに、主要な産地をはじめとして、春や収穫時期に平均以上の雨が降ったため、生産量と果実の品質が低下した。これらの複合的な影響は、業界の収益に影響を与え、近年の新植の速度を大幅に低下させた。これらの要因により、近年の生産量は業界の生産能力を下回って変動している(図2)。主要な産地をはじめとして、季節ごとの気象条件がより典型的なものに戻れば、近年そうであったよりも生産量が増加し、品質が向上することが見込まれる。

図2 オーストラリアの生食用ブドウの生産動向



出典: Horticulture Innovation Australia 並びに当事務所の推計 (e) 及び予測 (f)

生産

オーストラリアの2024/25年度の生食用ブドウの生産量は、2023/24年度の下方修正された推計値である19万5千トンから23万トンに増加すると予測される。達成されれば、過去最高の生産量であった2022/23年度の23万3千トンに近いものとなる。主要産地の生産者らは、今シーズンの発芽がここ数年で最も良いと報告しており、2024年10月下旬に予想される開花と結実の結果を待ちつつも、このことは非常に高い着果量の可能性を示している。特に、十分な低温積算時間とここ数カ月の最高気温の上昇により、近年のシーズンに比べて約2週間早く発芽したことが注目される。

これまでのところ、平均以下の降雨量や高い気温(その結果、近年に比べて曇りの日が少なくなった)等の良好な条件が、シーズンのこの早い段階での病害圧力の低下に貢献している。これらの要因と十分な灌漑用水の利用可能性が、最高記録に近い生産量の基盤を形成している。シーズンを通して好天が続く場合、生産量は現在の予測を超える可能性がある。

主要産地の生食用ブドウの木は、5月から7月にかけての平均以下の最低気温により、休眠期の初期に低温積算時間が積み上がった(図3省略)。

主要産地の生産者らは、今シーズンの発芽は近年目にした中で最も力強いと報告している。低温時間の積み上げに続き、2024年9月の発芽に至るまでの期間及び発芽期の間、平均を上回る最高気温が続いた(図4省略)。これにより、今シーズンの着果量が増えるが、最終的な最大収穫量は2024年10月下旬に予想される開花と着果の結果によって決まる。

発芽後の段階に入って数週間しか経っていないが、今シーズンの生食用ブドウの休眠期間が始まって以来の降雨量が平均を下回るため、病害圧力が非常に低いと生産者らは報告している(図5省略)。降雨量の減少により、曇りの日が少なくなり、日照時間が増え、病害の発症を助長しにくい状況を作り出している。

しかし、今後数カ月間に予測される平均以上の降雨量による潜在的な影響については、いくつかの懸念がある。オーストラリア気象局は、2024年11月から2025年1月にかけて平均以上の降雨が発生する可能性があるとして予測している(図6省略)。生産者は通常、特に十分な灌漑用水がある場合は乾燥した条件を好み、過度の降雨は真菌類の蔓延、土壌水分の問題、及び収穫作業の混乱のリスクを高める可能性がある。通常よりも湿った条件が広がると、生産者は果実の生育と品質を制御できなくなる。しかし、雨が降った後に曇り空が長引かず晴れた状態が続く場合は、リスクを効果的に管理できる可能性がある。土壌水分のレベルが通常より低い現在の状態も、予想される降雨に対するある程度の緩衝力となり、土壌飽和のリスクを減少させる。

主要な生食用ブドウ産地であるマレーバレー、サンレイシア及びリバーランドの主な灌漑水源は、これらの地域の南東に位置するダートマスダムとヒュームダムである。両ダムの貯水率は、2024/25年度の灌漑シーズンに入った後の2024年9月末時点でも、それぞれ95%及び68%に達している。ブローアダムとプリンジャックダムに依存しているリベリーナ地域は、同時期にダムの貯水率がそれぞれ77%及び84%であると報告した。これらの高い貯水率は、10月から11月の春の雨による追加の水の流入と相まって、灌漑用水の利用可能性とコストがこの栽培シーズンの制約要因にならないことを保証している。

2023/24年度の実績予測については、当事務所は前回の22万トンから19万5千トンに修正した。この大幅な下方修正は、同シーズンの不利な状況、特に主要産地の収穫期における悪天候によるものである。このことは果実の品質に影響を与え、その結果、ブドウの木から収穫される果実の量が減少した。

消費

当事務所は、生食用ブドウの消費量が2023/24年度の推定値の9万3,700トンから、2024/25年度には10万3千トンに増加すると予測する。この増加は、2024/25年度の実績の改善が見込まれるため、国内供給量の増大と消費量の増加に貢献すると予想される。

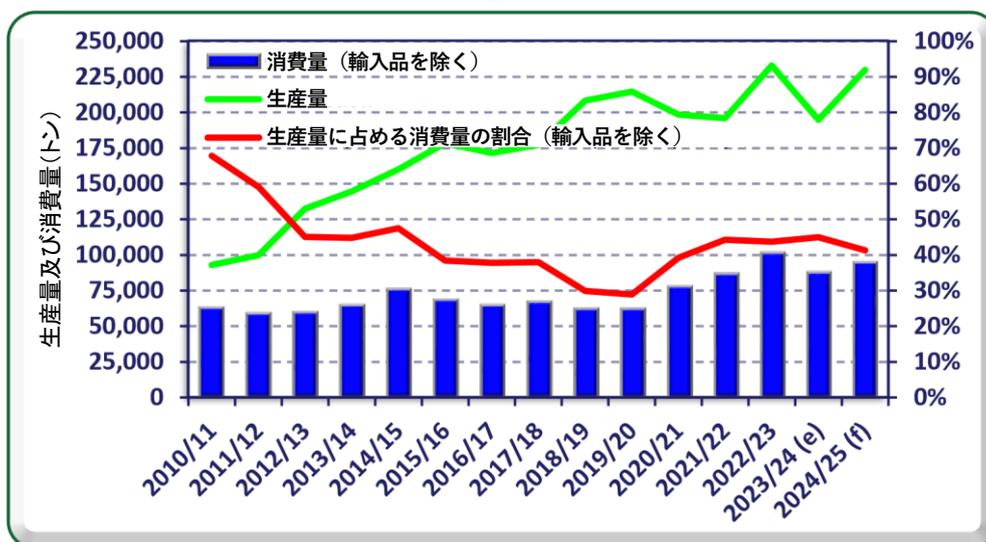
オーストラリアでは、国内産の生食用ブドウは主として12月から5月まで販売され、7月から11月までは大部分が米国产である輸入ブドウが市場の不足を埋めている。

概して言えば、時間の経過とともに生産量が増加するにつれて、国内消費量も増加傾向にあった。しかし、近年では、総生産量に占める国内消費量の割合は横ばいになっている(図7)。この傾向に影響を与える主要要因としては、国内市場と比較して輸出市場で獲得できる価格プレミアムの程度と季節ごとの全体的な果実品質の変動が挙げられる。

通常、生育シーズンが順調であれば、全体的な作物の品質も向上する。生食用ブドウの品質が高いほど、輸出に適した作物の割合が高くなり、このことも国内供給を制限する傾向がある。

2024/25年度は、生育条件の改善により、期待される生産量と品質が前年度を上回る見込みである。国内消費量は10%増加すると予測されるが、総生産量に占める消費量の割合は4%ポイントの減少が予測される。

図7 オーストラリアの生食用ブドウの生産と消費の傾向



出典：当事務所

(e)推計値、(f)予測値

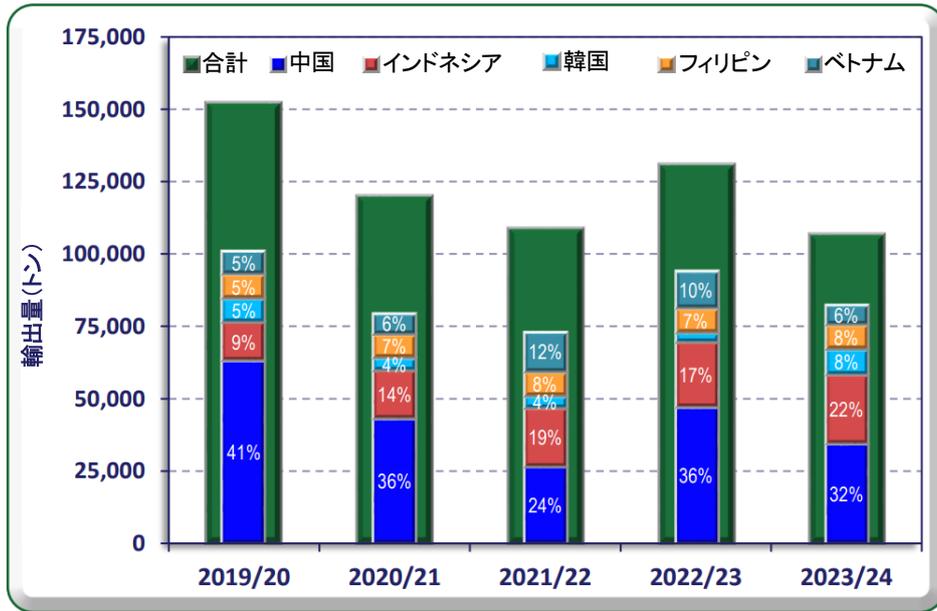
貿易

オーストラリアの2024/25年度の生食用ブドウ輸出量は13万5千トンに達すると予測され、2023/24年度の大幅に下方修正された推計値の10万7,300トンから26%の増加となる。実現すれば、これは2018/19年度と2019/20年度に次ぐ史上3番目に多い輸出量となる。なお、これらの年には全体の生産量が少なかった一方、果実の品質と中国をはじめとする輸出市場の需要が高かったため、輸出に仕向けられる割合が大きくなり、国内への供給量が制限された。

オーストラリアは生食用ブドウを主にアジア市場に輸出している。輸出量は年々急速に増加しており、2010/11年度の2万9,900トンから2019/20年度のピーク時には15万2,500トンに増加した。しかし、COVID-19のパンデミックに関連する混乱と、それに続く数年間の収穫時の平均以上の降雨量は、生産量と果実の品質の両方に影響を及ぼした。オーストラリアの潜在的生産能力は予測された水準を上回っており、気象条件が良好であれば、ブドウ産業は以前の輸出記録を超える能力を有している。

中国は長い間、オーストラリア産生食用ブドウの主要な市場であり、全体の輸出の4分の1から3分の1以上を占めてきた。インドネシアも数年前から、韓国、フィリピン、ベトナム等と同様に主要な輸出先となっている。この輸出先グループは、一貫して生食用ブドウの輸出量全体の約70%を占めている(図8)。過去には、日本が輸出量全体の約10%を占め、輸出先の上位3位以内にランクインされていた。業界の最近のレポートによると、日本はオーストラリア産生食用ブドウの品種の制限を解除し、予測対象年度における日本向け輸出の増加への期待が高まっている。

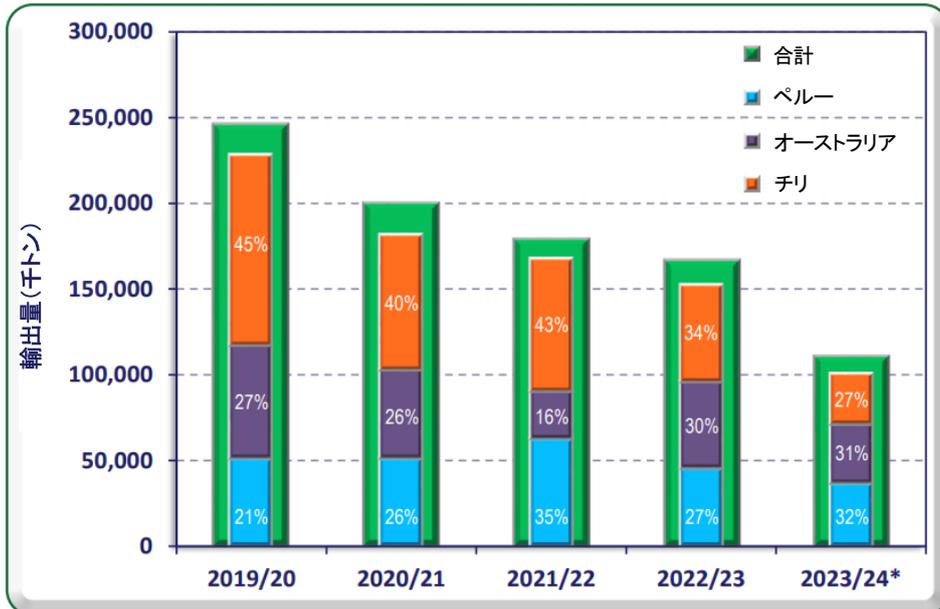
図8 オーストラリアの生鮮生食用ブドウの主要輸出先



出典：オーストラリア統計局

中国の生食用ブドウ輸入量は、過去5年間でおよそ半減した。これは、中国での生食用ブドウ生産の急速な拡大によるものである。業界は、中国が国内での販売期間を延長するため、ブドウを最大6カ月間貯蔵したと報告している。しかし、これは消費者に届くブドウの品質に悪影響を及ぼした。従来、中国の生食用ブドウ輸入量の90%以上はチリ、ペルー、オーストラリアからであった。しかし、チリが米国向けの輸出の増加に焦点を移したため、中国の輸入に占めるチリのシェアは近年大幅に低下しており、最大の供給国から第3位に後退した(図9)。

図9 中国の生鮮生食用ブドウの輸入動向と供給国



出典：オーストラリア統計局

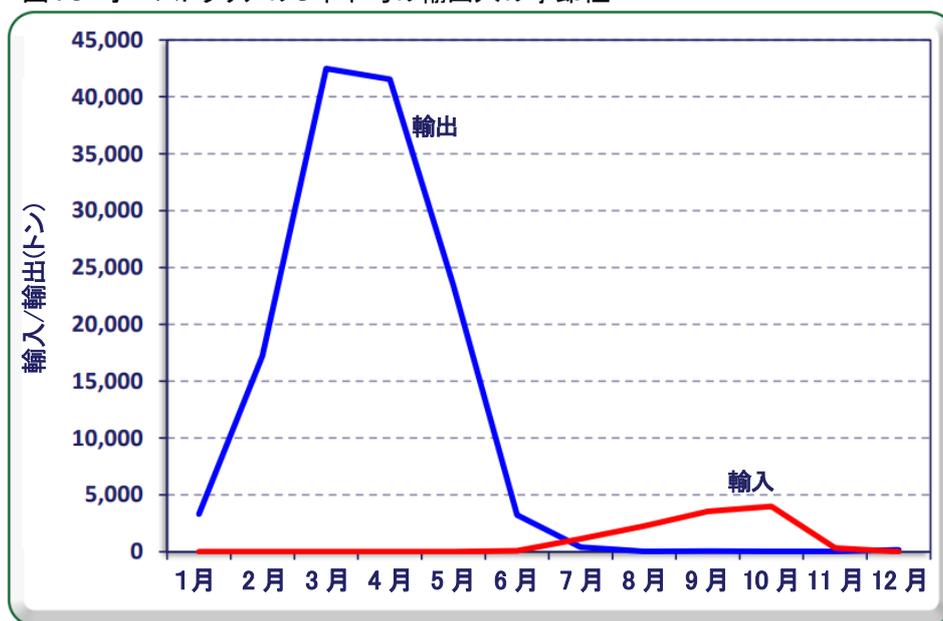
注：* = 2023年10月～2024年7月の10カ月間

オーストラリアの輸出業者の主な有利性は、南米諸国から中国への輸送が約35日かかるのに対し、オーストラリアからは18～20日であることである。前述のように、近年、オーストラリアの生食用ブドウ生産者は、輸出市場で求められる権利関係の有る新しいブドウ品種に栽培を集中させている。これらの要因は、南米の供給者よりも主要な市場に近いオーストラリアの生食用ブドウ輸出業者を支えている。

オーストラリアの輸入量は、2023/24年度の推定6千トンから2024/25年度には8千トンへとわずかに増加すると予想される。オーストラリアによる生食用ブドウの輸入はほぼ全てアメリカからで、中でもカリフォルニア州産がほとんどである。一部の果実業界の関係者は、2023/24年度現在小売店で販売されている生食用ブドウの品質が通常の基準を下回っており、消費者の需要に影響を与えているようだと指摘している。予測対象年度の輸入ブドウの品質が通常の水準に改善されることで、消費者の需要と全体的な輸入が増加するものと予想される。

オーストラリアの生食用ブドウの輸入は、ほぼ完全に季節補完的に米国から出荷され、7月から11月の間に入荷する(図10)。そのため、米国及び他国からの輸入品と国内産との間には直接的な競争はない。

図10 オーストラリアの5年平均の輸出入の季節性



出典：オーストラリア統計局

表1 オーストラリアの生食用ブドウの生産需給統計

ブドウ(生鮮、生食用) 販売年度の始まり オーストラリア	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2022年10月		2023年10月		2024年10月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	14,000	14,000	0	14,000	0	14,000
収穫面積(ヘクタール)	14,000	14,000	0	14,000	0	14,000
商業的生産量(トン)	233,000	233,000	233,000	195,000	0	230,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	233,000	233,000	233,000	195,000	0	230,000
輸入量(トン)	6,700	6,200	10,000	6,000	0	8,000
総供給量(トン)	239,700	239,200	243,000	201,000	0	238,000
生鮮国内消費量(トン)	108,500	108,000	88,000	93,700	0	103,000
輸出量(トン)	131,200	131,200	155,000	107,300	0	135,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	239,700	239,200	243,000	201,000	0	238,000

公式データには、[PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。